

【たからばこ特集】

いにしえ

古の産業を物語る自然のお宝「風穴」と一年中楽しめる志保山登山！

三豊市仁尾町の志保山に、半世紀以上埋もれていた「風穴」という天然のクーラーともいえる場所があるのを知っていますか？

香川県では綾川町の高鉢山の風穴が有名ですが、そもそも風穴は養蚕（蚕の繭から作られる生糸から絹織物が生産されていた）が盛んだった 1900 年頃、秋には活動が衰える蚕ですが、蚕の卵を夏場冷蔵すると繭作りを秋まで延ばすことが出来ることから、天然の冷蔵庫として蚕の卵の保管に利用されていた場所です。その吹き出し口の温度は夏でも 13 度前後。まさに大地の仕組みを上手に利用した自然のお宝と言えるでしょう。

豊中町の桑山という地区名も蚕が盛んで、蚕が食べる桑がたくさんあったところから付いたようです。残念ながら、第二次世界大戦後には化学繊維が発達し、養蚕は衰退し、志保山の風穴も忘れられました。

この風穴を再発見したのが仁尾町の真鍋正和さんです。子供の頃行ったことのある風穴を探し歩き、大量の土砂の中からわずかな冷風が出るのを頼りに、山のそれぞれの地権者にも了解を取りながら、仲間と風穴の整備にとりかかりました。

こうして、何年もかけ、風穴と登山道の整備を行い、山歩きを安全に楽しめるように、階段を作ったり、ロープを張ったり、見通しを良くするために木を切ったりと、その地道な活動に多くの方が共鳴し、協力してくれるようにもなりました。

夏の暑い日でも、燧灘から吹き上げる海風と適度な木陰で登りやすい志保山は、まさに年中楽しめる山と言えるでしょう。また、各所に見所もあり、風穴をさらに登ると山桜の大木、風穴の石垣に用いた凝灰岩と凝灰角礫岩の石切り場、三豊平野を一望できる展望、パラグライダー基地とすばらしい展望を楽しむことが出来ます。

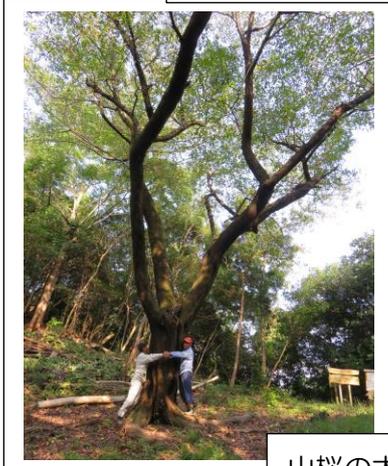
山歩きのガイドも務める真鍋さんは、イノシシの又タバ（お風呂）や加藤清正を祭った石像など、山を知り尽くしたからこそ分かる所にも案内していただきます。古の産業文化に想いを寄せながら自然を楽しめる志保山へ、皆さんも登ってみませんか。



風穴登山口の看板：歩きやすいように各所で階段にしています



半世紀ぶりに復活された風穴：天然のクーラーです



山桜の大木：4月には美しい山桜の花が咲きます



石切り場：風穴の石垣に使ったと思われる凝灰角礫岩きょうかいかくれきがん



パノラマ展望：三豊平野や燧灘ひょうなだを見渡せます